（とかねっと・コーディネーター・コラム）

TOCOCO

令和7年4月9日（水）
とかねっと通信　第11号
文責：北海道新得高等支援学校
コーディネーター　木村

新得高等支援学校の特徴を紹介します！

その１　本校の学科は「木工科」と「家庭総合科」の２つです。

時間割の中で、最も多いのが「作業学習」の時間です。安全管理やコミュニケーション、衛生管理など働くための基本的な技能を身に付けます。木工科はその名のとおり木工作業でスツールやテーブルなどを作ります。家庭総合科は、1、２年生は縫工作業で布製品の製造、３年生は製菓作業でコーヒー豆の選別と焼き菓子の製造を行っています。

木工科「オダッシュ木工製作所」

家庭総合科作業所「カリヨン」こと被服実習室と製菓実習室

その２　自立活動の時間があります。

「自立活動」とは、心理的な安定や人間関係の形成など個々の生徒が自立を目指す上で必要な知識、技能、態度を養うための学習です。２週間に１回程度、１時間目の時間を自立活動の時間とし、担任との面談などを行います。定期的に担任と話すことで、課題を見つけ、解決に向けて一緒に取り組んでいます。

その３　新得町内での学習

宿泊研修、自然観察、施設見学、国道花壇整備など、地域に出て学習する機会が多いです。中でも、新得町最大の祭り「しんとく新そば祭り」にボランティアとして参加し、町外からいらした方々とも交流します。教職員以外の人との交流や初めての経験が生徒の成長を促します。

そば祭りボランティア

その４　学校の立地

新得町は十勝の西端に位置しているため、多くの生徒は「新得高等支援学校スクール便」という拓殖バスが運営する路線バスを利用して登下校しています。音更、帯広、芽室、清水を経由します。学校の２階の教室からは広々とした景色が望めます。生徒たちは静かで緑を身近に感じられる環境で３年間を過ごします。

２階の教室からの眺め

「関係機関との連携～大人がつながる～子どもをささえる」

特別支援学校では、生徒の円滑な学びと進路実現のために様々な外部機関と連携しています。生徒が十分に自分の力を発揮し、最大限成長できるようにするために、本人とのコミュニケーションに加え、保護者、教職員間、及び関係機関などとの情報共有や役割分担が重要です。

しかしながら、外部の機関との連携に敷居の高さを感じたり、多忙さから外部との連携ができなかったり、「偏見なく生徒と接したいのであえて引継情報は見ません。」「困っている様子の生徒がいるけど、本人の成長のために見守ります。」などといった対応の結果、生徒も保護者も先生方も困り感を抱えている状況になっている事例も見受けられます。「相談する力」の育成が求められる時代、大人も困ったときに誰かを頼り、課題を解決に向けて連携、協力できると良いですね。

今回は、主な連携先と連携方法について簡単にご紹介します。

◯出身学校、幼稚園、保育所、および進路先

年度の変わり目で必ず情報共有したいところです。子どもの特性やエピソード、生育歴の共有にとどまらず、本人が新しい環境で十分に能力を発揮できるようにするための方法（言葉の掛け方やツール、頼れる資源など）まで共有できると良いです。

◯ケアマネージャー、発達支援センター、放課後デイサービスなど福祉サービス関係

学校外での活動がある場合は、伸ばしたい能力や関わり方の共有をすることでより効果的な支援ができます。子どもが過ごす場所によって、大人の対応や指示が異なると、子どもはどうしたら良いか分からず混乱することがあります。それぞれの役割とねらいを確認し、共通理解を図った上で関わる必要があります。

◯町の保健福祉課、保健師などの行政機関

生育歴や家庭環境に心配がある場合や卒業後のフォローとして情報共有し、支える役割、見守る役割を担います。地域によっては、保健師が家庭と深く関わっていることがあり、子どもや家庭の理解に役立ち、アプローチの手助けをしてもらえることもあります。

◯スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医療機関、児童相談所等

子どもの精神面の心配、子どもが助けを求められない場合、家庭に外部からのアプローチが必要なとき、医療機関を受診するとき、虐待が疑われるときなど、子どもがピンチの時に連携すべき人、機関です。スクールカウンセラーは個人面談だけでなく、生徒への心理教育や教職員への研修等集団へのアプローチも有効です。学校から家庭にアプローチするのが困難な場合はスクールソーシャルワーカーが有効です。家庭や本人からの説明では症状の説明や対応方法の伝達が困難な場合には通院同行等も検討します。児童相談所は虐待発生時のみならず、PTSD へ対応や児童養護施設を利用している場合など、情報を共有し本人の事情を知ることで、対応時の注意事項が整理されます。

十勝特別支援教育推進ネットワーク協議会「とかねっと」

【目的】

①管内の特別支援学校それぞれの専門性や関係機関の情報を共有すること。
②教育機関・福祉・医療・労働の様々な機関との連携を図り、特別支援教育の理解・啓発を図ること。
③定期的な研修を通して、特別支援教育の力量向上を図ること。

※一人で悩んだり学校だけで抱えずに、いつでもお気軽にご相談ください♪

詳細は北海道帯広養護学校 HP をご覧ください